令和８年度

地域とともにある学校づくり　コミュニティ・スクールの充実

保谷第一小学校　３年生

西東京ふるさと探究学習

単元名：（活動名）「地図を使って地域の様子をよく見てみよう」

ねらい：
・他教科（社会等）との関連をはかりながら自分たちの住んでいる地域に興味・関心を持ち地図や町の様子から地域の良さや課題について見つけようとすることができる。

【４月下旬～５月上旬】＜課題の設定＞

社会科の学習と並行して、保谷第一小学校の周りの様子を調べることから地域を知ることを始めました。普段見慣れている景色や土地も、地域巡りをすることで、新たな発見や気付きを得ることができました。

【地域にある公共施設】　【学区域に残る文化財】　【地産地消　畑や直売所】　【豊かな自然　公園】






【５月中旬～６月中旬】

＜整理・分析＞

地域巡りで訪れた場所、お店や施設、公園などを社会科の学習の中で地図に記入しまとめていきました。



方位（東西南北）によって、保谷地域の中でもそれぞれ特徴が見られたり、他地域と比べたりすることで、自分たちが生活する下保谷周辺のよさに気付き、愛着をもつ児童もいました。「地図の見方」を平行して学びながら、地域の特徴を掴んでいきました。

【６月下旬～】

＜まとめ・表現＞

「こんな町になったらいいな」というテーマで、「残したい施設」「生活に必要な施設」「あったらいいなと思う施設」について話し合い、形にしました。



社会と共に学んだ「公共施設」の必要性や、生活するのに欠かせないお店など、表現する形は違えども、下保谷地域のよさにインスパイアされながら、何より児童が楽しんで「理想の町」について話し合い、制作する姿に主体性を感じました。

まとめ

２年生の町探検とはまた一味違った地域巡り。下保谷周辺の土地の特徴に視点を置きながら、「地図」に表されるふるさとの様子は、３年生になった児童たちにとって多くの再発見がありました。社会科の学習と関連付けることで、他地域と比較する機会も多くなり、より一層保谷第一小学校周辺地域に対する愛着が増していった様子でした。

「こんな町になったらいいな」では、社会科のフィールドワークの成果を生かし、「残したい施設」や「生活に必要な施設や場所」について子どもたちなりに根拠を持って話し合い、理想の街づくりにつなげることが出来ました。